

保育者養成における保育内容「表現」の
授業に関する一研究 (2)
——発表にみる学生の学び——

菅沼 邦子

(2010年10月12日 受理)

Investigation of classroom instruction for “expression”
in nursery school teacher training (2):
—— Students’ learning as observed in their presentations ——

Kuniko SUGANUMA

Abstract

In *Investigation of classroom instruction for “expression” in nursery school teacher training* (Suganuma, 2009), it was found that the application of eurhythmics techniques was helpful in improving the students’ own ability to express. Further, it was revealed that the students perceived the techniques to be instrumental in accepting children’s expressions and sharing the joy of expressing with the children.

Based on these results, the present study aims to examine the significance of students’ presenting to audience other than their peers, focusing on the presentation to be given as a summary of learning in the course. In this study, a questionnaire survey on the students’ perception of their presentation experience was conducted at three stages: (1) during the making of their presentation work, (2) after their presentation, and (3) after viewing of the video of their presentation. The results showed positive effects of learning by experience in terms of affects, techniques, observation, flexibility, etc. suggesting its relevance to the aptitude and ability necessary for the nursery school teacher. From this, learning by experience is considered to be important for the students when they examine children’s presentation behavior in actual nursery schools settings in the future.

はじめに

保育者養成における保育内容「表現」の授業に関する一研究 (1) (菅沼 2009) により、学生自身の表現力の向上にリトミックの手法を用いることが有益であり、またこのことは、子ども

の表現を受容することや、表現する喜びを子どもと共有することに繋がると、学生自身が感じたということもわかった。

本論では、これらの結果をふまえ、表現力向上の一助としてリトミックの手法を用いることを継続しながら、まとめとして行なう「発表」に焦点を当て、学習者間以外に対して発表することの意義について検証することを目的とする。

平成元年の幼稚園教育要領改定により登場した、保育内容の領域「表現」は、これまでの技術的、訓練的に偏りがちであった表現活動の反省から、子どものありのままの姿を表現としてとらえようとする趣旨に変容している。しかしながら、保育の現場では、うた、合奏、オペレッタなどを保護者などの前で発表することは行なわれているし、運動会、卒園式なども広い意味で何かを他者の前で発表する表現の場として捉えるなら、子どもの表現の結果を発表として他者に見せるということは保育現場の大きな行事として位置づけられている。保育養成校では、このような表現の捉え方を学生にどう指導していくのに未だ困惑している状況もある。

筆者は、発表することの意義について考える手立てとして、授業の学習の成果を、学習者間以外に発表することを通し、学生が何を学び取るかを探ることで、保育現場における子どもの発表は、どうあるべきか考える一助としたい。

1. 本学における「保育内容 表現Ⅲ」の授業概要と学生の実態

昨年度同様、「保育内容 表現Ⅲ」の授業は、3年次前期に行われた。この授業は、保育士資格、幼稚園一種免許希望者の必修科目である。当該学生の3年前期までに行なわれた授業、実習の中で、直接子どもと関わるものは、1年次の幼稚園観察実習、2年前期「保育内容 表現Ⅰ」の授業における、幼稚園でのうたあそび部分実習、2年9月の幼稚園実習（2週間）である。子どもの姿、また保育者がどのように子どもに関わるかを観察することから始め、少しずつ子どもと直接関わることを通して、保育者としてどのような技術や能力が必要なのかを理解し始めた段階である。「表現」に関しては、子どもの表現をどう読み取るか、捉えるか、保育者は、子どもの表現をどのような言葉や表情で見取り、援助していこうとしているかなどの観察力は長けているように思われる。しかしながら、自分自身が表現者としてあること、またそれに必要な技術はまだ欠けているように思われる。そこで、本授業では、昨年に引き続き、学生自身の表現力の向上を第一の目標とし、体験を重視するリトミックの手法をとることとした。以下に当該授業のシラバスを示す。

[シラバス]

*授業の目的

子どもの豊かな感性や表現を育むためには、保育者自身が豊かな感性、表現力を持っているなければならない。表現Ⅲの授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針における「表現」の意味を理解した上で、学習者自身の豊かな感性、表現力を向上させるためのスキルを、リトミックを基礎とした方法により習得することを目的とする。

*授業内容の概要

- 1～4回： リトミックの手法により、主に音楽の要素を媒体とし、身体、空間、音・音楽、動きの関係性についての学習を行なう。
- 5～7回： 今まで学習したことをもとに、グループで楽曲をコレグラフィーし授業者間での発表、鑑賞、振り返りを行なう。
- 8回： 言葉を使った表現についての演習
- 9, 10回目： 教具（ボール・フープ・ひも）を使った表現についての演習
- 11～14回： オープンキャンパス発表作品の企画、創作
オープンキャンパスでの発表
- 15回目： 振り返り、まとめ

2. 研究 方 法

2-1. 研究方法は、最終授業（15回目）に行なった振り返りシートによる。（Iのみ5択、以下自由記述）

アンケート 総数（84名）受講者数（85名）回収率（98.8%）

振り返りシート

I. 表現Ⅲの授業でのリトミック（音楽を身体表現する）の学習は、子どもの表現活動の良さを理解する等、保育・幼児教育に携わる際に、役立つと思いますか？下から選んでください。また選んだ理由を書いてください。

5. とても役に立つ 4. 役に立つ 3. どちらでもない 2. 役に立たない
1. 全く役に立たない

理由：

II. 作品を発表することの意味は何だと思えますか？

III. オープンキャンパス発表について感じたことを書いてください。

発表場所（ランバス／クック／ヒノハラ）

- 1) 作成過程
- 2) 発表後
- 3) 発表を鑑賞して

IV. 表現の授業を通して、自分が学んだこと、身についたこと、また今後の課題を書いてください。

3. 結果と考察

3-1. I. 表現Ⅲの授業でのリトミック（音楽を身体表現する）の学習は、子どもの表現活動の良さを理解する等、保育・幼児教育に携わる際に、役立つと思いますか？

下から選んでください。また選んだ理由を書いてください。

- 5 大変役立つ＝67名（80％）昨年度（64.4％）
 4 役立つ＝ 17名（20％）昨年度（35.6％）
 3, 2, 1＝ 0名（0％）昨年度（ 0％）

<理由>

- ・保育者自身が身体表現の良さや楽しさを理解していないと子どもに伝えることはできない。
- ・子どもは、保育者を見て育つ（まねをする）手本となるために。
- ・大人になって忘れていた感性を取り戻せた。
- ・表現の方法は様々なので、一人ひとりの個性を受け止めることが大事だと思った。
- ・自分では思いつかなかった表現を共有することができた。
- ・個性を引き出すきっかけになる。
- ・言葉だけではない表現の広がりを体験できたこと。
- ・音楽を身体表現することは、知らないうちに他者と笑顔を交したりして、コミュニケーションをとるきっかけになる。
- ・リトミックには固定された決まりがないので、自由にのびのびと表現ができる。
- ・表現の幅が広がった。
- ・自然に身体が動くようになった。
- ・友達と一緒にやる楽しさを味わった。
- ・音や物を使った表現は、表現の幅が広がる。
- ・子どもの行事などで振り付けをするときなどに役立ちそう。
- ・普段味わうことない感覚を、視覚や聴覚だけでなく身体で感じる事が出来た。子どもの表現活動に役立つと思った。

- ・身体活動は気持ちが開放的になり、他者とのつながりが出来る。このような経験を保育者自身が持つておくべきだと思う。
- ・ことばで表現するのが難しい子どもも、身体表現によってできる。
- ・物や道具を使った音楽あそびを学ぶことが出来た。
- ・表現するためのスキルや能力を身に付けることが出来た。
- ・人前で表現することの恥ずかしさがなくなった。

[考察]

はじめの“リトミックの学習が、保育に役立つか”に対する回答は、(5) 大変役立つ (4) 役立つ、の合計が100%であった。昨年度と比較し (5) (4) の合計数は同様であるが、(5) 大変役立つ は64.4%から80%に増加している。理由については、昨年と概ね同じ結果である。

酒井は¹⁾ 保育者の役割について①幼児の活動の理解者②幼児との協同作業者③憧れを形成するモデル④あそびの援助者 の4点を挙げている。自身の経験が、すなわち子どもを理解し、一緒に、あるいは援助することにつながると捉えることが出来ている。また、よきモデルとしての意識も感じていることがわかった。

3-2. 発表することに関する調査

◇発表の概要◇

昨年に引き続き、学習発表の場を、本学で行なわれるオープンキャンパス（第2回＝7月18日、第3回＝7月19日）とした。18日（土）Aクラス、19日（日）をBクラスとし、発表場所は、キャンパス内のどこに設定しても良いとした結果、学生の希望により、1. 砂本記念講堂ランバスホール 2. クックホール保育実習室 3. ヒノハラホール3階の3箇所と決定した。

オープンキャンパスという条件を鑑みて、1. 砂本記念講堂ランバスホールは全体説明会の前の時間（9：40～9：55）、2. クックホール保育実習室は、体験・発表コーナーの時間（①13：20～13：35／②13：40～13：55）に2回行う。3. ヒノハラホール3階では、ティータイムの時間（14：15～15：00）の間の15分程度とした。

発表することに関するアンケートの調査結果を示す。対象、調査実施日、調査方法は、前述2.（研究方法）と同じである。

◇発表内容◇

【Aクラス】

*ランバスホール（23名）：昔話“桃太郎”を、伝承あそび、ボディーパーカッション、ゲタップなどの手法により表現する

*ヒノハラホール（8名）：子ども賛美歌，こどものうたの合唱，合奏

*クックホール（8名）：劇～女学院幼心生の一週間～

【Bクラス】

*ランバスホール（27名）：絵本“かいじゅうたちのいるところ”をうたや動きで表現

*ヒノハラ（9名）：ディズニー，子ども賛美歌などのうた合奏

*クックホール（8名）：くつしたマペットを使った参加型劇

3-2-1.

Ⅲ. オープンキャンパス発表について感じたことを書いてください。1) 作成過程

発表場所（ランバスホール＝ラ／クックホール＝ク／ヒノハラホール＝ヒ）

ク：時間が限られていたため，計画を立てて進めていくことの重要性を感じた。

ラ：大きなテーマ，題材だったので，出来るか心配だった。完成が見えてくるにつれ，早く観てもらいたい，もっと良いものにしたいと感じた。

ク：出た意見は形にして表してみることでイメージがよりふくらみやすくなることがわかった。頭や口だけでなく本番さながらに練習をつめていくことが大事である。

ク：練習の時点で第三者に意見を聞くことも大事だと思った。

ラ：大人数だったのでまとめるのが大変だった。

ラ：意見の衝突もあったが，グループみんなで解決し合い，団結力が生まれたと思う。

ラ：発表が近づくにつれみんなのやる気ははじめと違う気がした。

ラ：みんなで一つのものを作り上げる喜びを感じる事が出来た。

ヒ：選曲，曲の並び，曲の間のつながりを考えた。練習しながら，アレンジ，構成を考えた。

ラ：確認しあったり，声を掛け合ったりした。

ヒ：発表場所を考慮して出し物や，幼心学科の特色を出せるよう工夫した。

ク：高校生に一番何を伝えたいのかを頭においた。目標を持って準備が出来た。

ク：話し合いの際の言葉に傷ついたりしたが，苦労が多い分，出来上がっていくことの喜びを感じた。

ク：テーマを決めるのに苦労した。

ヒ：幼心らしさをどのように表現したらよいか悩んだ。

ラ：発想のぶつかり合いによって1つのものが出来た。

ヒ：誰かがお客さんとして観るということをした。

ラ：細かい動きを考える過程ではなかなか進まず煮詰まったが，実際に動いてみるとあっという間に決まって，考えるよりも動くほうが良いのだと実感した。

ラ：様々な意見交換の中で、取り上げられなかった意見もたくさんある。しかし取り入れられなかった意見があったからこそより良いアイデアが生まれ作品が完成したと思う。

ヒ：前年度のビデオであまり演奏を聴いてくれない雰囲気だったので、自分たちはその場の空気が少しでも変れることができるようにしたいという思い出取組んだ。

ヒ：ただの演奏にならないように登場の仕方、パペットを使う、参加する時間を設けるなどの工夫をした。

ラ：裏方の役をしたことで、舞台では裏でこんな準備をしてくれる人がいたことを知った

ラ：授業で体感しながら学んだ静と動の使い方やビート、リズムのユニゾンや重なり、音楽に合わせて身体を動かすことなど様々な要素を意図的でなく組み込んでいた。

ラ：衣装、小道具、音楽を一から作っていくのが大変だった。担当以外でも出来ていない部分を手伝ったりした。

ヒ：手作り楽器などを作ることは、実際に保育現場でも使えそうで楽しかった

ラ：時間配分が大事だと思った。

ラ：意見が合わなかったりぶつかったりしたが、練習をつむにつれ集中力や団結力が高まっていくのを感じた。

ク：自分でやりたいことを選択してチーム分けしたことは、決められたことをするよりもやる気が格段に違った。

ラ：大人数だったのでまとまらずに大変だった。

[考察]

作成過程では、やる気、喜び、悩み、ぶつかり合い、苦労、心配など、人間関係の中で生まれるさまざまな感情表現の記述が見られた。特にランバスホールを発表場所としたグループは大人数であったため、苦労した様子がみられる。これは直接的な人との関わりが希薄な現代の学生にとって大切な経験の一つだと思われる。そして、練習をつめる、繰り返す、考えるより動く、声を掛け合う、確認しあうなど、具体的な解決方法を見出していることがわかる。

3-2-2.

Ⅲ. オープンキャンパス発表について感じたことを書いてください。2) 発表後

ク：参加型にしたのが良かった。

ラ：やりきった！大変だったけどやりきるのって楽しいと感じた。普段していることを観てもらえることがうれしかった。

ヒ：観てくれる人に一緒に楽しみたいという気持ちを届けるのが大事だと思った。

- ク：お客様の楽しそうな反応（拍手）（涙）（言葉がけ）がうれしかった。達成感があった。
- ヒ：ホッとした。
- ラ：もっと練習したかった。
- ラ：観て貰えたことがうれしかった。
- ラ：関わった人数が多かった分、盛り上がり終わることが出来た。
- ク：一人では出来なかった。みんなでやったことがうれしかった。
- ラ：胸がいっぱいになった。感動した。
- ラ：終わってみるとあっという間だった。
- ラ：たくさんの人の協力でできたことを忘れない。
- ヒ：充実感
- ヒ：観てもらうこと気持ちが良い。
- ラ：緊張した。普段の発表とは緊張の度合いが違う。

[考察]

観てくれた人からの反応に関する感情表現の記述が多い。うれしかった、感動した、気持ち良かったなど、おおむねポジティブな感想が多い。発表は、全般的に失敗なく終えたので、このような感想を持ったのだと考えられる。自分のやったことを人に認めてもらうことのうれしさは、子どもに対応するときの重要な経験となると考えられる。

3-2-3.

Ⅲ. オープンキャンパス発表について感じたことを書いてください。3) 鑑賞後

- ラ：自分たちが思っていたのと違っていた。
- ラ：立ち位置などもっと客席から見て考えたほうが良いと思った。
- ヒ：もっと笑顔だったらよかった。
- ラ：曲や照明が伝えたいイメージをよりわかりやすくしていた。
- ヒ：間違いが多かったのがわかった。
- ラ：幼心らしさが表現できていて、誇りに思った。
- ラ：授業で習った要素が含まれていたこ。生かせていたと思う。
- ラ：動きや、立ち位置がずれている、早口だったり、声が小さい事に気付いた。
- ク：一生懸命やる姿はカッコいい。
- ラ：舞台空間をもっと上手に使えばよかった。
- ラ：鑑賞して鳥肌が立った。
- ラ：声が小さい。

ラ：大きく動いたつもりでも、そうでもなく見えた。大袈裟に表現することが大事だと思った。

[考察]

自分たちの作品を客観的に見て、想像していたものとの違いに気づくことが出来ている。また発表後の感想と比べ、動き、表情、声の大きさなど、作品の詳細を観察し、具体的な改善点を見出している。ビデオなどによって客観的に作品を鑑賞し、振り返ることの大事さを感じる。

3-3. II. 作品を発表することの意味は何だと思いますか？

- ・達成感が得られる。
- ・自分たちでは見えないものを他者から見てもらうことでもっとよい作品になる。
- ・発表しないと自己満足で終わる。
- ・人に見てもらおうと思うとやる気になる。
- ・良かった点、改善点など感想や意見を出してもらえる。
- ・伝えようとする意識が強まる。
- ・表現に磨きがかかる。
- ・自分たちが作ったものを共感してもらおう。
- ・自己アピール
- ・楽しみや癒しの空間を提供する。
- ・自分たちの学びの確認
- ・見る人に感動を与える。
- ・観てくれる人の立場にたって、どう見えるのか、また想いをこめて発表をする。
- ・企画・構成・創作力の向上。
- ・他者に見てもらうことで、作品の完成度を高めようと努力する。
- ・発表する側の意識の向上
- ・自分たちが頑張ったものをみてもらう。
- ・どのようにみられるのかを考えるため。
- ・発表するという目標があると意欲がでる。
- ・客観的な目を持つと作品が良くなる。
- ・人に見てもらう喜びを知ることが出来る。
- ・どうしたら伝わるか、どう表現したらわかりやすいかを考えることが出来る。
- ・自分たちのイメージと相手から観るイメージの違いに気づくことができる。
- ・人前に立つことに慣れる。

- ・評価される。
- ・作品を発表することで他の人の目を意識して表現することができる。保育者は常に子どもの前に立っている存在である。緊張感の中でも力が発揮できる意味でも大切な経験である。
- ・観る人が感動するもの、心揺さぶるものを創ろうとする。
- ・学生間だと妥協する。
- ・大きく動くなどの工夫をするようになる。
- ・作り手と観客が空間を共有する。
- ・未完成がありえないため、意識が増す。
- ・見せる意識が自分のスキル向上につながる。
- ・自分に自信を持たせる。
- ・他人にどう受け止められているのかの反応を見ることができる。
- ・一緒に創った仲間との団結力が違う。
- ・自分の役割、責任感が生まれる。

[考察]

発表し、他者の評価を受けること、とりわけ学習者間以外に対し発表することに、学生は妥協が許されないと感じ、目標設定が明確であるため、それに向かって活動していくことは、役割意識、責任感、やる気をより強く感じるということがわかる。その結果、作品の質や完成度の向上を目指す。このことは学生の表現技術の向上につながると考えられる。

4. 全体の考察と課題

この授業を受講した学生は、本学幼児教育心理学科2期生である。昨年度(1期生)の発表を直接またはビデオで見て、発表の概要がつかめていたことや、学年の特徴として、動くことが好きな学生が多いこともあり、概ね練習や発表を楽しんでいたように思われる。発表も概ね満足した結果となった。

今回、学生自身が発表作品の企画、構成をし、また発表者として舞台、あるいはさまざまな発表の場に立った経験を、作成過程、発表後、鑑賞後の感想から振り返りを行った。学生はこれらの経験が、保育者としての資質や技能の向上につながると感じていることがわかった。今後は、保育現場における子どもの発表をどう捉えるか、について考えていくことにつなげていかなければならない。

お わ り に

リトミックの創始者であるエミール・ジャック＝ダルクローズは、“リトミック教育の目的は、生徒たちに、その学習を終えたとき、「わたしは知っている」ではなしに、「わたしは感じとる」といわしめることにある”と述べている。

学生の記述にみられる、団結力、責任感、共有、他者とのつながり などの言葉を、学生が「知っている」ではなく「感じ取り」、それらを子どもとの関係の中で生かせるような授業研究をこれからも目指していきたい。

引用および参考文献

- 1) 酒井幸子 2010『保育内容「表現」』平田智久ほか編 ミネルヴァ書房
- 2) フランク・マルタンほか 1977『エミール・ジャック＝ダルクローズ』全音楽譜出版社